雨岳文庫（うがく）ニュース

第5号
発行：平成22年8月10日
発行人：雨岳文庫
http:www.ugakubunko.ath.cx

春から夏にかけての主な行事　その1

家族そろって筍掘り（４月２５日）

前日までの雨に変わり暖かい筍堀り日和に恵まれ、大人・子供合わせて100人を超す参加者で大盛況でした。当日は、観ボラ、東農大の藤垣先生、学生さん始め多数の応援を頂きました、

湘南の海が見渡せる雑木山で竹の子を掘り、皮のまま洗って大釜に入れ、大釜に茹でてあった竹の子を取り出す学習もしました。小さめのものは焼き筍にし、あとの筍は少しずつ持って帰ってもらいました。

【昼のメニュー】

・筍の炊き込みご飯、
・若竹汁（わかめとたけのこ入り味噌仕立て）
・山菜の天ぷら（たけのこ、こごみ、たらの芽）
・煮〆（たけのこ、ふき、しいたけ、人参、さんしょの芽）
・漬物（手作りたくあん、きうり

班に分かれて交替に掘りました。

焚き火を囲んで、田楽味噌で食べるのも、また、格別の味！

お茶摘み（５月８日）

当日は晴天にも恵まれ、大人・子供合わせて40人余の参加者は、講師の中尾陽子さんからお茶の摘み方を聞いてから新芽を摘んだ後、葉を蒸かし、炭を使った焙炉（ホイロ）を使って手もみ茶作りに汗を流しました。

昼食後は、中尾さんから新茶のおいしい注ぎ方を習い、早速各テーブル毎に自分たちで淹れて、味わいました。

作ったお茶を少しずつ持ち帰っていただきましたが、おうちで入れたお茶の味はどうだったでしょうか？！

今年出た新芽だけを摘みます

子供たちのお茶揉みも熱が入って

摘んだお茶の葉を蒸して、生殺し（なまごろし）をします

昼はお茶の葉や雨岳文庫の畑で採れた新鮮な野菜を使った料理を食べました。

【昼のメニュー】
・五目寿し（粉茶ふりかけ）
・天ぷら（新茶葉、さつま芋、たらの芽、こごみ）
・煮物（竹の子、ふき、手作り蒟蒻、桜の花形人参、さんしょの芽添え）
・おひたし（みつば）
・漬物（農業体験の大根浅漬け、きうり）
・味噌汁（じゃが芋、玉葱）
【新茶試飲の時の会員手作りの菓子】
・晩白柚のピール
・ふきのアンジェリカ
・紅玉の甘煮）

大山道展　第一回の展示を終えて

昨年の７月１９日から１１月２３日まで第一回の「大山道展」を行った。四ヶ月間の会期後、行事ごとの随時開館を含めて約1300人見学者があった。私どものようなまったくの素人が、よくやったと思うのだが、山口理事長をはじめとして雨岳文庫クラブや観ボラの皆さんなど、多くの方々のお力添えがあったとことを肝に銘じ、感謝申し上げる次第である。

無我夢中のなかに終わった第一回に続いて現在は第二回が進行中だが、大山道展をやることになった経緯をお話ししておきたい。また第二回のことについて状況を述べておきたいし、大山道展について関係者の皆さんがどのように考えているのか、いいのか悪いのか、その他意見交換も必要ではないかと思っている。

展示のきっかけは、ちょうど市の歴史解説アドバイザーの講座が終わって『アドおおやまみち』という大山道愛好者のグループが市内全域を歩き、一応の道標調査を終わったところで、どのようにまとめようかという時に、タイミング良く「それなら展示をやってみないか」というお話をいただいたことが始まりである。調査後の道標整理のために各ルートの資料が手持ちとしてあり、エピソードもあって、方針も早く決まったので、初めて経験するグループ全員の熱意がうまくまとまって予定どうり進捗した。山口家の史料提供も、展示目的に適った「鳥居の設計図」や「高札」「その時代の品物」などが山口理事長の助言とともに提供されて展示の厚みを増したと思う。

何にもまして目玉展示となったのは,上粕屋を中心とする大山までのジオラマであった。これには雨岳文庫クラブの皆さんの研究熱心な努力があった。大きな本体を作る前に、部分的に試作して大きくしたときの問題点を検討したり、平塚博物館の展示を見に行って参考にしたり、着色にしても、電気配線にしても、展示枠まで自作する技術力と行動力など、見学者の皆さんに好評だった陰には、クラブの皆さんの表に出ない熱意と努力があったことは、もっと知っていただきたいことであった。

さて、現在は第二回の大山道展を準備中である。メンバーたちの加齢現象の影響のためか、第一回のように怖いもの知らずで突っ走るエネルギーやや欠けるようであるが、第二回の展示に向けて年齢に負けず準備を進めているところである。その成果は今年９月の開館をお楽しみにしていただきたいと思っているが、第一回を終わって第二回の準備中と云う時期に当たって、展示作業者として持っている感慨を記してみた。

平成２２年８月４日

アドおおやまみち　　田　中　米　昭

第2回大山道展 『交通の変遷と大山道』(明治、大正、昭和の大山道)

9月25日(土) ～ 公開予定です

春から夏にかけての主な行事　その2

影絵夢幻語り＆丹沢史交流会（６月１３日）

第１部　元県立高校校長武真幸氏の講演「丹沢史「江戸時代の丹沢山と山守村」について講演、絵本作家梶谷泉氏の影絵をバックに梶谷氏扮する樵（ぶな）の巫女が語る（夢幻語り）丹沢の歴史とぶなの山の荒廃に聴き入りました。

第２部　前段の話（江戸・東京が、ぶなに象徴される丹沢の丹沢の自然を食ってきた等々）についての質疑や丹沢の自然をどう守るか？などをテーマに参加者で意見交換をしました。

第1部

第2部
丹沢史シンポジウム

うどん作り教室（7月１８日）

小麦の収穫から食物として口に入るまでを参加者たちが作業を通じて学ぶことをテーマに、東京農業大学のグループなどおよそ40人の参加で行いました。

雨岳文庫の畑で収穫した小麦を、足踏み脱穀機（これが興味の的）を使って脱穀した後、電動と手動の製粉機を使って製粉し、石井道子さんの指導でうどんを手打ちし、大釜で茹で上げ、早速試食しました。汗を流しながら作ったうどんの味は格別のようでした。

テーブルには、実習で作ったうどんのほか、製粉時にできたふすまを使ったパンやクッキーも並び、会員の揚げた天ぷら（雪ノ下、アシタバ、茶葉等）、煮豆、漬物などもあり豪華な食卓になりました。

二の鳥居周りに夏の花を！（６月１３日）

伊勢原市みどりのまち振興財団から提供して頂いた夏の花の苗を植えました。

二の鳥居周辺

手動の製粉機
これがなかなか重い

トッピクス

雨岳の里に西洋ミツバチが

西富岡の畑に設置したミツバチの巣箱に西洋ミツバチの一群が来訪しました。

日向薬師で捕獲したニホンミツバチあわせて二群となりました。

蜜源のひまわ

夏祭り子ども神輿が立ち寄り

8月1日（日）今年も子どもたちのみこしが雨岳文庫に休憩のため立ち寄りました。

猛暑の中お疲れ様でした！

今後の行事予定

①第2回大山道展
『交通の変遷と大山道』
（明治、大正、昭和の大山道）
9月25日(土)～12月5日(日)の
土、日、祭日　13:00～16:00
入館料200円　（会員無料）
※以後、23年4月30日(土)までの間は、催し物・入館予約の団体等のある時に開館します。

②さつま芋掘と木の実や竹細工で遊ぶ
10月17日(日)　500円／一家族

③古民家見学会(伊勢原市教育委員会)
10月31日(日)　無料

【季節の花:すいれん】

会員の浮かした睡蓮
（葉の下には金魚も隠れています）

【雨岳文庫クラブ会員の活躍】

１０月の芋掘りは勿論、資料館開館、住宅の見学等に備えていつも下支えをしてくださるのが「雨岳文庫クラブ」です。感謝！感謝！

さつま苗植えつけ

落花生の除草

植木の手入れ

東京農大藤垣先生のお手伝いで、小麦刈り

※藤垣先生は、元は近代農学の方で、政府から派遣されてメキシコの緑化に取り組まれたそうです。雨岳文庫の草畑に興味を示されて･･･

近隣の歴史探

七　つ　塚

雨岳文庫から大山に向かって道灌塚バス停から東方２００ｍくらいの所に太田道灌に殉じた従者を葬ったと言う七つ塚がある。

七つ塚は一時「七人塚」とも呼ばれ、太田道灌の従者七人の墓とされていたがおそらくは「七つ塚」とするのが正しいのだろう。なぜならば、太田道灌ほどの武将がわずか七人ばかりの家臣しか従えていなかったはずはなく、しかも道灌の暗殺後、その家臣たちは一人として江戸城に帰ったと言う記録がないことから、全員が道灌と同じ悲運にさらされたと思われるからである。名もなき大勢の従者たちは、七つ塚に分けて葬られたのだろう。現在残っているのはただ一つだけが残っている。

（「いせはら史跡と文化財のまち」より）（原）

石碑は七人塚

【ボランテアの募集】

次のお手伝いをして頂ける方を募集しています。

①雨岳文庫資料館（大山道展）の受付
②雨岳文庫周りの草取り、植木の手入れ等の管理作業
③ミツバチの蜜源になっている花畑の管理作業（東京農大の方々と一緒に東京農大の藤垣先生のお手伝い）

【お手伝いいただける方は下記にご連絡をお願いします】
TEL　0463-95-0002（山口）
※「雨岳文庫」のホームページに情報を載せています。

【編集後記】
連日の猛暑、つい冷たい飲み物や冷房と体には良くないことばかり。夏風邪もに注意したいものです。。
今回は「大山道展を終わって」と題して寄稿頂きました。好評だった第１回に引き続き第２回も準備中とのことで公開が楽しみです。（原）